



# 関西 ECOMAIL

第25号

## 関西 ECOMAIL

関西の学会員のみなさまに、ワークショップのお知らせと環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また、学会員以外の方々に、環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

年間1000円の通信費をいただきましたら、ワークショップの案内とECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振込先：日本環境教育学会関西支部)

郵便振替口座番号 00990-5-37886)

## 関西ワークショップのお知らせ

### 第40回ワークショップ

4月15日(土) 2:30~5:00  
大阪教育大学 天王寺キャンパス  
(S4教室) 本館南, 東詰

話題提供

木内 功さん (エス・ピー・エス大阪)  
「ボランティアについて考える  
—震災ボランティアへの取り組みと  
その意識 (キャンプカウンセラーの  
アンケート調査より)」

### 第41回ワークショップ

6月17日(土) 2:30~5:00  
大阪教育大学 天王寺キャンパス  
(JR「寺田町」下車, 南改札西へ3分)

話題提供

梅津 麗美さん (名古屋市在住)  
「環境問題の基本」



## 第6回 全国大会 (千葉) の案内

日時：1995年5月13日(土), 14日(日)

会場：千葉県立中央博物館 / 県立青葉の森芸術文化ホール

5/13 開会式 特別講演 一般講演 ミニシンポジウム ワークショップ 総会  
5/14 ミニシンポジウム ワークショップ 自由集會 (懇親会は5/13)

学会員へは近日中に詳しい日程が知らされます。問い合わせは下記まで。

千葉県立中央博物館 環境教育研究室

〒260 千葉市中央区青葉町1955-2

TEL 043-265-3167

## 関西ワークショップ（3/11）報告

「この度の震災に遭われた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。」

3月ワークショップが甲南大学（昨年度の環境教育学会全国大会会場）を中心に行われた。午前中の集合場所の摂津本山駅前ロータリー自体が、1階がつぶれ、傾いたビルで取り囲まれている。この近辺は、震度7に指定され、多くの犠牲者を出し、建物が多数倒壊した地域である。震災から2ヶ月近くたったと言うのに火災跡や崩れた建築物は震災時の凄まじさをそのまま留めており、添えられた花束が目にも痛い。また、甲南大学の西側を流れる住吉川は昭和13年の阪神大水害で多くの犠牲者を出し、川沿いでは何か所かに鎮魂碑とも言うべき当時の記念碑が建てられている。全員が案内者のもと巡回するという計画もあったが、被災者の方々の感情を考慮して、集合場所で簡単に説明をし、付近の地震関係地図を配布し、簡単な説明を加えたあと、各自・各グループで廻ってもらうこととした。

午後からは甲南大学に会場を移し、昨年度の全国大会実行委員長でもある谷口氏（甲南大学）から甲南大学での被害状況の報告のあと話題提供・討論が行われた。話題提供は「防災教育と環境教育－自然災害を環境教育の中でどう捉えるか－」の題目で内容はつぎのとおりである。

1. はじめに「天災は忘れる間もなくくる」
2. 自然災害の特徴－自然現象が災害に変わるとき－（1）自然現象と人間生活への影響（2）災害の複合的要素
3. 自然災害と自然科学－科学技術の成果と限度－（1）科学・技術の発展と自然理解（2）災害予知と防災体制
4. 自然災害に対する環境教育の視点－環境教育での取り組み－（1）学校・家庭・社会で行う防災教育（2）土地利用変化に伴う地形改変の影響（3）地域の歴史・自然から学ぶ姿勢
5. 今後の課題  
（1）生活のための知識の必要性（2）重要なSTS教育の視点

その後、総合討論が行われたが、実際に被害を受けられた方々の取り組みや意見、神戸市の行政に関わっている人々やボランティアを経験した人々の発言など多くの教訓が得られたワークショップであった。

なお、本年度の環境教育学会全国大会のときに阪神大震災に関する自由集会在急遽持たれることとなった。このワークショップの成果が全国大会にも生かせることを願っている。

文責 関西支部 藤岡

## 第39回関西ワークショップに参加して

神（自然）は、何と不公平なのか。雲仙、奥尻、八戸といい、今度の淡路・阪神大地震といい、限られた地域に集中的な被害をもたらせた。被災地域に住む人々の無数の悲劇と痛嘆、あまりにも無念な惨事を思うと神に対して不公平を訴えたくなくなったのは私だけであろうか。

今回、神戸市東灘区のごく一部地域を回り被災状況を歩いてみて、その感を深くした。同じ場所で同じような建物が一方で崩壊して瓦礫と化し、他方では被害は受けても外見上は依然として残っている。道一つ隔てて被災状況が大きく異なっている。

建物の耐震性とか地盤など、いろいろな条件はあるのであろうがこれ程の差異が生じたことは私の理解を越えていた。これが活断層による直下型地震なのであろう。

JR 摂津本山駅から南へ歩き、魚崎海岸の液状化現象による噴砂地帯を見学し、東へ本山町から森南町の家屋倒壊地域と東海道線北側を回った後、ワークショップ会場で藤岡達也先生の話聞いた。

「天災は忘れた頃にやってくる」というが、先生は「天災は忘れる間もなくくる」と。まさにその通りで台風や洪水、火山や地震・津波は毎年のように日本列島を襲っている。それが大都市に起こると今回のように大災害をもたらし、人心を震撼・驚愕させる。それは自然現象の人間生活への影響の度合により、あるいは自分の身近に起こった出来事か、そうでないかによって、対岸の火事視しがちな世俗によって印象が異なる。今回の地震について聞かれると、乱暴な言い方を許されるなら「人間が地球（環境）を我が物顔に破壊した報い。地球が怒って主張している」と、被災地の方には申し訳ないが答えている。

人間が山に、地下に、海にと、コスト中心に集中して生活する。古くは活断層には家を建てないで道にしたと言われ、古道や街道は断層に沿って作られていることが多い。現在では山崎活断層や中央構造線に高速自動車道が造られている。災害が生じると、構造基準を遙かに越えた災害であったと常に言われる。これでは人災に近い。危機管理も叫ばれるが、その前に危機意識が大事であるように思う。さらに、その危機に対して幾らであればコストを払うのか。計算が面倒だから上下動は無視する耐震構造など、危機意識の問題である。これから台風や雨の多い時期に向かうが、土砂崩れなどの災害は絶対に避けたい。

以上、一面的な感想に終わったが、防災は個人、社会、行政ともに必要で且つ可能であろうが、もっとも必要なことは人の心であり、要は環境教育の今後が問われることでもあると思う。

多くの犠牲者と高価な代償によって得られた経験を、私たちはどのように生かすことができるであろうか。

（上野 一人）



# ネットワーク

## ■アース・デー1995

### ■アース・デー1995

#### 共同イベント(予定)

日時：4月22日(土)

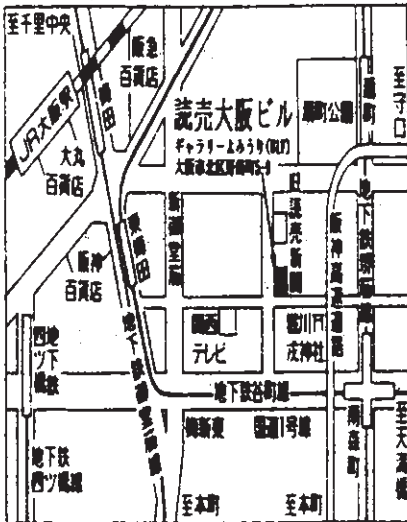
10:00～ オープニングセレモニー

13:00～ 「子どもたちのために」をテーマにしたイベント

15:00～ 読売大阪ビル→大阪市役所/アピールのパレード

場所：ギャラリーよみうり

(読売大阪ビルB1F)



〒540 大阪市中央区谷町1-3-17-813

「アース・デー日本連絡所」

TEL. 06-941-3745 FAX. 06-941-5699

### ■各団体の取組

#### 大阪地域

◇「第三期地球環境大学」開講

◇シャピロ(大阪芸大)のアースデー95行動計画

◇「ストップ・フロン法」立方化のための署名活動

◇恋人よ北から南へたそがれの

◆環境文化フォーラム 4月22日

10:00～12:30/読売ギャラリー/

「今、物語を変えるー未来世代からのメッセージ」ゲスト金泰昌氏ほか

#### 京都地域

◇アース・デー1995京都ネットワーク(パレードなど)

◇リサイクル市(京都大学生協)

◇環境ネットワーク「R4の会」(大文字ハイク, エコ・マーケット)

◇環境入門講座「野の塾」(環境市民)

#### 滋賀地域

◇アース・デーネットワーク滋賀

#### 奈良地域

◇アース・デースプリング in なら'95(ごみ拾いハイキング)

◇高取川アース・デー鏝機波(しからしの未来と文化を語る集い)

他 個人参加や他地域の取り組みがある

### 関西 ECOMAIL

第25号 1995年4月12日発行

編集 日本環境教育学会関西支部世話人会

発行 日本環境教育学会関西支部

事務局 大阪教育大学 環境科学教育研究室 (鈴木善次研究室) 気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1 (☎ 0729-76-3211 [内線 3127])

次回 第25号 1995年6月25日発行予定 原稿締め切り 6月10日